

| | | | | | | | | |
|-------------------|---|---|-----|---------|------|----------|------|----------|
| 授業科目名 | 【G】 | フレッシュマン・セミナーⅡ | 区分 | 開講年次 | 【G】1 | 単位数 | 【G】2 | |
| | | | 必修 | | | | | |
| 科目区分 | 基本科目 | | | | | | | |
| 授業形態 | 対面授業 | | | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | | | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | | | | | | |
| サブタイトル | スポーツ及び生命・身体に関わる事象の批判的検討 | | | | 担当者 | 松宮 智生 | | |
| 授業概要 | 【概要】 | 現代スポーツが抱える諸問題に着目し、現実の事例に含まれる哲学・社会学・法学的論点を学ぶ。受講者には、スポーツ及び生命・身体に関する報道・記事のチェックを求め、メンバー(教員・学生)間での情報交換を積極的に行っていききたい。学期末には、各人が関心をもつテーマについて論点を整理し、自分なりの考察・結論をプレゼンテーションしてもらう。 | | | | | | |
| | 【到達目標】 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代のスポーツあるいは生命・身体に関わる現代的課題を整理することができる。 ・学習内容をもとにテーマを設定して、自らの見解を発表することができる。 | | | | | | |
| 履修条件 | 特になし。 | | | | | | | |
| アクティブラーニングの方法 | 【-】 | 事前学習型 | 【-】 | 反転授業 | 【○】 | 調査学習 | 【-】 | フィールドワーク |
| | 【-】 | 双方向アンケート | 【-】 | グループワーク | 【○】 | 対話・議論型授業 | 【-】 | ロールプレイ |
| | 【○】 | プレゼンテーション | 【-】 | 模擬授業 | 【○】 | PBL | 【-】 | その他 |
| ディプロマ・ポリシーとの関連性 | DP(ディプロマ・ポリシー)① | - (当てはまらない) | | | | | | |
| | DP(ディプロマ・ポリシー)② | ◎ (よく当てはまる) | | | | | | |
| | DP(ディプロマ・ポリシー)③ | ◎ (よく当てはまる) | | | | | | |
| | DP(ディプロマ・ポリシー)④ | - (当てはまらない) | | | | | | |
| 他科目との関連性 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学における学び(特に2年次以降の演習科目における学び)の基礎を身につける科目である。 ・受講者が関心をもつテーマであれば、他科目で学んだ内容であっても、本演習において研究・発表しても良い。 | | | | | | | |
| 教科書 | 特になし。 | | | | | | | |
| 参考書 | 特になし。 | | | | | | | |
| 評価方法 | 発表・ワークシート(50%)、授業への参加態度(50%)、演習における貢献(+α)をもとに総合的に判断する。 | | | | | | | |
| フィードバック方法 | 発表・コメント内容をもとにメンバー(学生・教員)間で議論を行う。発表・コメント等に対して教員が講評(対面および文書)する。 | | | | | | | |
| 評価基準 | 授業の内容について理解をし、発表に積極的に取り組んだ者には「S」または「A」、理解・発表に不十分な点がある者にはその程度に応じて「B」または「C」とし、理解・発表いずれも著しく不十分な者にはその程度に応じて「D」または「E」、評価不能は「F」とする。 | | | | | | | |

| 授業 科目名 | 【G】 フレッシュマン・セミナーⅡ | 区分 | 開講年次 | 【G】1 | 単位数 | 【G】2 |
|-----------|---|----|------|------|-----|------|
| | | 必修 | | | | |
| 授業内容 | <p>1. 導入:スポーツ科学・体育学における研究領域について(第1・2回) スポーツ科学・体育学は、人文・社会・自然の諸科学から成る総合科学である。本演習の導入においては、スポーツ科学・体育学を構成する研究諸領域を概観し、人文・社会科学における研究テーマおよび研究手法について学ぶ。</p> <p>2. スポーツ・生命・身体に関するトピックの解説(第3～5回) スポーツ・生命・身体に関するトピックについて、スポーツ哲学、スポーツ社会学、スポーツ法学の観点から講義形式で解説する。 それらに基づいて学生間で簡単な意見交換を行う。トピックに含まれる論点を理解し、自分の見解と他の学生・教員の見解とを比較検討したうえで、自分の見解を相対化するよう努めること。なお、必要に応じて、体育館等においてスポーツ実践(障がい者スポーツ等)を行う場合がある。</p> <p>3. 学生による議題提供とディスカッション(第6～9回) 自分が興味をもつテーマについて論点を整理したうえで議題を提供する。それに基づいて演習内で議論をする。</p> <p>4. プレゼンテーションの方法について(第10回) 第11～14回におけるプレゼンテーションに向けて、プレゼンテーションソフトの操作を学び、発表の準備をする。</p> <p>5. 学生によるプレゼンテーション(第11～14回) 自分が興味をもつテーマについての考察を発表する。 発表は、序論(問題の所在、研究の目的)、本論(調査・考察)、結論(自らの見解)により構成されていること。</p> <p>6. プレゼンテーションの補足・フォローアップ、総括(第15回) 前週までの議論・発表を総括し、発表後に起こった事象などをフォローアップする。次年度以降の研究テーマを考える。</p> | | | | | |
| 予習内容 | <p>本演習に関連するニュース・報道を調べること。 自分のテーマに関する資料を収集すること。 プレゼンテーションの準備をすること。 授業ごとの予習時間は90分程度を目安としてください。</p> | | | | | |
| 復習内容 | <p>他の受講生や教員の見解と自分の見解とを比較すること。 議論・発表の論点を整理すること。 プレゼンテーションの改善点をまとめること。 授業ごとの復習時間は90分程度を目安としてください。</p> | | | | | |
| その他 | <p>特になし。</p> <p>※G加:【必修(〇お)】</p> | | | | | |